

11月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今月は父母の命日があった。何年経過しても夢の中には必ず父母が登場してくる。「死を想え、終わりは必ずやってくる。一日、瞬間を精一杯生きよ」。忘れがちな人生の原理原則、親の命日で思い起こさせられた。これからも必ずやってくる大切な人たちとの永遠の別れ、そして自分自身の死。自分を見失わないで受け入れられるか自信はない。人間ドックの「要精検」でビビりまくりの私、毎日を精一杯生きながら準備しよう。

1・映画から

◆「荒野の掟。荒野の渴いた砂は人を凶暴にする。自分が生き残るために人は心を忘れてゆく。荒野の片隅で生まれた愛は人を強くする。大切なものを守りたいという想いが秘めていた強さを覚醒させる。荒野で磨かれた勇氣は人を自由にする。開拓する精神が新しい喜びを作り上げる。どんな荒野にも愛があり、どんな荒野にも明日が訪れる」〈WOWOW映画『ジェーン』より〉

元彼と悪党に立ち向かう女性ガンマンの西部劇。映画の始まる前に映し出された詩である。「大切なもの」や「愛」が人に勇氣を与え強くする。強敵、困難にも臆せず立ち向かえる。勇氣があれば今日も明日も自由に生きていける。バスケットボールは荒野である。

2・読書から

◆「人生は、思い通りにいかないことがほとんどです。それは、すでにできることではなくて、できないことに向けて頑張るものだからです。」〈『Sports Japan』水泳日本代表コーチ・加藤健志〉

バスケットボールの練習はできることの繰り返しではない。できないことをできるようにする、新しいことへの挑戦だ。できないことができるようになる喜びを選手に経験させるためにコーチは存在する。

3・新聞のコラム等から

◆「今日は気分がいいから、教えてあげよう。人生はな、冥途までの暇つぶしや。だから、上等の暇つぶしをせにゃあかんだ」〈朝日・折々のことば・今東光〉

人生はたった1回、ラスト1回。遠慮している暇はない。他人の眼を気にしている暇もない。ただひたすら上質、超一流を求めて学び狂うのみ。

◆「最後のNOの後に、YESが来る。そして、そのYESにこそ、未来の世界がかかっているのだ」〈朝日日曜版・ウオーレス・ステイブンス(米国詩人)〉

地球温暖化の警鐘を鳴らした元米国副大統領アル・ゴアが、地球温暖化問題を巡る闘いの最前線に不屈の精神で立ち続けられるバックボーンの一節。何ごとも最後の最後まであきらめてはいけないことを教えてくれる。

◆「与えられるものは有限、求めるものは無限」〈朝日・スピードスケート・小平奈緒〉

スピードスケートで抜群の強さを発揮している小平選手。五輪を控えた今シーズンのかみしめる言葉の一つ。どの世界も天才は飽くなき探求心。永遠に生きるかのように学ぶ。

◆「後ろに引く力が強いほど、矢は遠く飛ぶ」〈朝日・加藤登紀子のひらり一言〉

生きた歲月、失敗の経験、敗北の悔しさなど過去の重さが大ブレイクする原動力となる。